

和泉九条の会15周年のつどい  
「これからの日本をどうする」  
～希望としての憲法、教育～

お話し 前川喜平さん (元文部科学省事務次官)  
5月14日(土)14時～和泉コミセン

# 泉北教育

NO.2225 2022.4.18  
発行 泉北教職員組合  
〒594-0071 和泉市府中町6-12-2  
TEL0725-41-1953 Fax0725-44-6570  
E-mail senboku@gf6.so-net.ne.jp

## 和泉市教育委員会 実施の前週になって突然 全国学調の自校採点を「指示」

### 校長会も教頭会も 「寝耳に水」



「来週火曜日の『全国学調』を自校でも採点するように市教委から指示された。」  
13日(水)の教頭会から帰ってきた教頭先生の報告で、新学期の授業準備に忙しい和泉市の小中学校の職員室は「何を今頃になって急に？」という声であふれました。

聞くところによると、和泉市教育委員会が作成した「令和4(2022)年度学校に対する指示事項」(左写真「和泉の子どものために」という99ページに及ぶ冊子)の中に書いてあるということです。確かに9ページに「全国学力・学習状況調査については、自校採点を行い、スピード感を大切にし学力向上の取組みに反映すること。」と書かれています。

#### 今回「指示」の背景

2007年に第1次安倍内閣のもとで始められた「全国学調」の目的として文部科学省は、「①児童生徒

徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。」②学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。」の2つを柱としています。

しかし、②の目的があるにもかかわらず、結果がわかるのはテスト実施から数カ月後で、答えは返却されず、問題ごとにできたかできなかつたかを示す「個人票」が渡されるだけです。子どもは自分がどこをどう間違えたかわからず、教師も具体的な指導をすることができないことは、「学調」の問題点とされてきました。

これを、自校採点により補おうとするのが、今回の「指示」です。

でも、これって教育委員会が学校(校長)の頭越しに決めて、教頭先生に指示を出せば済むことなのでしょうか。

#### 「学調」を教育課程の中心に置くことが問題

①を目的とする「調査」であれば抽出で十分です。途中の民主党政権の時代には「抽出」で行われました。では、毎年数十億円の国家予算を使って「悉皆」で行う目的は何なのでしょう。

「調査」実施を提案した中山成彬元文部科学大臣は、「今までの教育に欠けていたものがあるとすれば競い合う心」、「全国学力テストをやって競い合う教育を」と発言し、調査の目的は競争原理＝順位争いによる「学力」向上であることを名言しています。

現に「調査」が始まってみると都道府県別の正答率が発表され、14年度からは学校別平均点の公表が解禁、点数アップが学校教育の最重要課題であるかのような風潮が助長されました。

そのため、各学校では授業時間をつぶして「過去問」をやらせることになり、石川県知事となった馳浩氏でさえ文部科学大臣時代に「点数さえよければいいのか」「(2)、3月から学力テストの過去の問題集をや

らせている学校があるのはとんでもないこと」など発言したほどです。

さらに文部科学省は24年度から「全国学調」を順次オンライン上で実施することを発表しています。これにより、「全国学調」中心の教育がさらに強まること懸念されます。

#### 和泉市教育委員会にやってほしいこと

和泉市教育委員会が、本当に「和泉の子どものために」と考えるなら、それは、「全国学調」を自校採点することではなく、学校に結果公表を強制しないこと、「悉皆調査」を「抽出調査」に改めるよう文部科学省に意見具申することではないでしょうか。

また、4月の学校現場は大変です。これ以上仕事を増やさないように配慮してください。



軍事力による領土変更は絶対に許されない。ロシアは直ちにウクライナから撤兵せよ！